

第4回札幌市まちづくり戦略ビジョン審議会専門部会 (環境、都市空間分野) 会議録

日時：令和4年12月6日(火) 18時開会

場所：かでる2・7 1040会議室(札幌市中央区北2条西7丁目)

出席：岡本委員、椎野委員、高野部会長、牧野委員

事務局：浅村政策企画部長、中本企画課長、田中企画係長、滝口企画担当係長

1. 開 会

○事務局(浅村政策企画部長) お時間になりましたので、ただいまから札幌市まちづくり戦略ビジョン審議会の専門部会を開会いたします。

事務局を務めております札幌市まちづくり政策局政策企画部長の浅村でございます。

委員の皆様におかれましては、お忙しい中、また、足元の悪い中、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

さて、おかげさまで去る10月6日ですが、札幌市議会におきまして第2次戦略ビジョンのビジョン編が賛成多数で可決されました。改めまして、委員の皆様の本審議会に対するご尽力に感謝を申し上げます。

本日は、戦略編の環境分野と都市空間分野について、7月の専門部会などにおけますご議論を基に再検討いたしました内容を資料として提示させていただきます。

なお、今回も関係する部署の市職員がオブザーバー参加しておりますので、よろしくお願い致します。

また、年明けに、もう一度、審議会を開催する予定ですが、そこで答申の案を確定させていくわけですが、その体裁についてもご確認をいただきたいと思います。

それでは、本日もよろしくお願いいたします。

○事務局(中本企画課長) 同じく事務局を務めます中本です。本日もどうぞよろしくお願い致します。

本日は、4名の委員にご参加をいただいております。皆さんが実地でのご参加で、オンライン参加の方はいらっしゃいません。

それでは、議事進行について高野部会長にお願いしたいと存じます。

2. 議 事

○高野部会長 皆さん、どうぞよろしくお願い致します。

議事次第をご覧ください。

次第としましては、ただいまもご説明がありましたが、戦略編のまちづくりの基本目標ごとの施策についてです。参考資料1に全分野のものが載っておりますけれども、私どもの専門部会で取り扱います環境分野と都市空間分野についてそれぞれご議論をしていただ

きたいと思います。

これまでいろいろと出していただいたご発言等がどういう形で今日の資料の中に盛り込まれているかというご説明をいただきますが、過不足等があらうかと思しますので、それを補足していただくということです。環境分野と都市空間分野についてご議論をいただいた後、戦略編の答申イメージの体裁等についてもご説明をいただくことになります。

ただ、これまでの議論でもお分かりになったと思いますけれども、分野ごとに分けて議論するのは簡単そうでなかなか難しく、他分野に関わることがある場合も多いので、ほかの分野のことも説明していただきながら皆さんのご意見を伺っていこうと思います。

それでは、資料の説明をお願いします。

○事務局（中本企画課長） それでは、分野に入る前に幾つか先に説明をさせていただきます。

まず、資料3の表紙をご覧ください。

本日は、第2章のまちづくりの基本目標ごとに取り組む施策が議題として、環境分野と都市空間分野ということです。部会長からもございましたが、7月に続いて2回目の議論となりまして、主に修正した点についてご確認をいただきます。

この分野以外の最新の案については参考資料1としておつけしていきまして、ほかの分野を参照する必要があるときに適宜ご覧いただきたいと思います。

また、第1章の分野横断的に取り組む施策ですが、こちらは4月と9月にご議論をいただいております。また、第3章の行財政運営の方向性は9月にご議論をいただいております。これらについてはどのように反映するかの作業中として、9月時点の最新の内容を参考資料2としてつけていますので、分野横断を参照する必要があるときには参考資料2をご覧くださいと思います。

そして、資料3ですが、三つ目の議題のところ答申イメージの体裁をご報告させていただきますが、分野の議論に入る前に一部ご覧いただきたいと思っています。

4ページをご覧ください。

こちらは、第2章の基本目標ごとの施策の答申イメージを一部作成してきたものです。

例として、今日議論していただく環境分野を取り上げまして、基本目標16までを載せています。充実強化しますという枠を分野の一つ設け、その分野の特徴的な取組が最初にぱっと目に入るようにしたいと考えております。

また、下に①から③と掲載していますが、現在検討していただいている資料では何々に向けてこうしますという文章で表記したものを並べておりますが、実際、答申案になるときは一つ一つにタイトルを振って、そこをみただけで端的に内容が伝わるような工夫もしたいと考えています。

次に、参考資料3をご覧ください。

こちらは、今年6月に実施しました市民ワークショップをはじめとする市民参加事業の実施状況をまとめた資料になっております。

4ページの右側になりますが、ここが本日ご議論をいただく環境分野に関する市民の方

からいただいたご意見です。それから、5ページの左側が都市空間分野に関するご意見をいただいたものですが、ご議論をいただいている内容と市民の方が思い描いている10年後の姿はそんなに違うものではないのかなと捉えているところです。

それから、6ページになりますが、こちらは地下歩行空間というオープンな場所で意見収集を行ったものでして、右側に環境分野、都市空間分野のご意見を掲載しています。

それから、7ページになりますが、こちらは主に次世代を担う子どもや若者を対象に意見交換を行った際の結果を参考として載せております。

特に、左上にあります小学生、高校生との意見交換、それから、右上の北海道大学の新渡戸カレッジの皆さんと意見交換をしたものについては、どのような意見をいただいたかというものも参考までに掲載しております。

皆さんに議論していただいて策定しましたビジョン編、今ご議論いただいている戦略編のいずれも、ただ単に説明し、普及啓発を図るところから一步踏み込み、このように市政課題を共有し、一緒に考えていただいて提案をいただくという対話を重視した取組を進めておりまして、一緒にまちづくりを考えてくれる人たちを増やしていこうと考えておりますので、ご参考までに報告をさせていただいた次第です。

○高野部会長 今日議論すべきことということで全体のお話をさせていただきましたが、今のご説明にご質問等があったらお受けしますが、いかがでしょうか。

大体の構成は分かりましたでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○高野部会長 それでは、環境分野についてのご説明をお願いします。

○事務局(中本企画課長) それでは、資料1をご覧いただきたいと思いますが、資料1-1と資料1-2に分かれています。資料1-1がA3判、資料1-2がA4判で文字だけの白黒のものとなります。

資料1-1は、7月にいただいたご意見を反映、修正した後の資料となります。また、資料1-2がいただいたご意見にどういう対応をしたか、あるいは、その考え方を掲載したものでして、今回の説明では主に資料1-2を使ってどのような考え方で対応したかに触れさせていただきたいと存じます。

左側に通し番号を振っています。この番号順にお話をさせていただきたいと思います。

まず、ナンバー1のご意見です。

地域循環共生圏について、行政同士の話し合いが必要であり、それを札幌市がリードしていくことが必要ではないかというご指摘です。地域循環共生圏の形成に向けては、環境分野の基本目標16のみならず、第3章の行政運営の取組の方針においても触れたいと思っております。北海道と道内市町村との連携により脱炭素社会の早期実現を第3章でも位置づけますし、ご意見のとおり、道内市町村等と連携しながら取り組んでいく考えであるということをご掲載させていただきました。

次に、ナンバー 2、ページをまたぎますが、ナンバー 3、ナンバー 4 のご意見です。

SDGs や環境問題に関して次世代を担う子どもたちに対する意識づけや、若者や子どもたちの考えを後押しすることなども明記する必要があるのではというご指摘です。目指す姿 4 の施策に下線を引いていますが、これらの取組を先導する人材の育成や支援について追記させていただきました。

3 ページをご覧ください。

ナンバー 5 のご意見です。

デマンド交通の普及促進や交通政策とエネルギー政策との関連性、人を中心とした交通を考えた際の ICT 技術の活用などを検討していく必要があるというご意見です。基本目標 18 の目指す姿 4 の施策にデマンド交通の導入、基本目標 19 の目指す姿 1 の施策に AI デマンド交通システムや水素燃料車両等の技術を活用したという文言を追記させていただきました。

なお、ICT 技術の活用については第 1 章の分野横断的な施策のスマートにおいても触れる予定で、モビリティ分野を含むあらゆる分野でのスマートシティの推進、生活の快適性やまちの魅力を高めていくことをスマートの分野でも目指していきたいと考えております。

次に、ナンバー 6 のご意見です。

雪処理や除排雪作業に関して、エネルギーの観点からどのように対策していくのか、その方向性を示すべきというご指摘です。分野横断的な施策であるスマートにおいて、雪との暮らし、雪の利活用の主な施策として除排雪作業の効率化、省力化を位置づけているほか、生活暮らし分野、基本目標 5 の目指す姿 4 の施策においても、ICT 等を活用した作業の効率化、省力化などを位置づけております。分野がまたがりますけれども、さらなる除排雪作業の効率化、省力化、ひいては省エネルギー化にトータルとして取り組んでいく考えです。

また、スマートの分野には雪氷熱、雪冷熱エネルギーの導入の可能性の検討も位置づけておりまして、こうした取組を通じて CO₂ 削減効果についてもしっかりと検証していきたいという考えです。

4 ページをご覧ください。

ここからは基本目標 17 についてです。

ナンバー 7 のご意見です。

市街地の外でボリュームのあるみどりのイメージに関する内容が主になっているように感じられるため、まちなかのみどりについてももう少し触れるべきというご指摘です。市街地におけるみどりについて、環境分野のほかに、都市空間分野の基本目標 18 の目指す姿 3 に住宅市街地の施策が、また、基本目標 19 の目指す姿 1 の都心の施策の中でもみどりの創出を掲げておりまして、しっかりと取り組んでまいりたいという考えであります。

次に、ナンバー 8 及びナンバー 9 のご意見です。

子どもやその親世代に対する自然やみどりに触れる機会の創出、日々の暮らしの中に快適性を高めるみどりを取り入れていくことの方を考え方を表すべきというご指摘です。目指す姿2の施策にあらゆる世代が暮らしの快適性を高めるという修飾語を追記させていただいております。

5ページをご覧ください。

ナンバー10のご意見です。

パークPFIに限らず、大通公園の今までの経験と歴史を踏まえた上で公園の在り方を考えるべきというご指摘です。都市空間分野の基本目標19の目指す姿1の施策に大通公園の在り方検討という文言を追記させていただきました。

次に、ナンバー11及びナンバー12のご意見です。

健康とのひもづけ、外に出かけたくなるようなまちづくり、みどりづくりを進める観点を盛り込むこと、歩いて過ごせる視点、歩いて使いやすいまちを推進すべきというご意見です。外に出かけたくなるようなみどりづくりを進める観点として、目指す姿2に公園の再整備や機能分担などによる公園の魅力向上と追記させていただいております。

また、健康とのひもづけに関しましては、第1章の分野横断的施策のウェルネスのテーマにおいて、ソフト面の対策とハード面の対策の両側面から総合的で効果的な対策の推進を掲げているところです。

加えて、外に出かけたくなる、歩きたくなるまちづくりについては、基本目標19の目指す姿1の都心の施策などにおいても歩きたくなる空間の形成を掲げ、取り組んでいく考えです。

最後に、6ページをご覧ください。

ナンバー13及びナンバー14のご意見です。

ヒグマのみならず、野生生物と幅広に捉えるほうがいいのではないかと、また、ヒグマ対策については周辺市町村と連携して取り組むことが大事だというご指摘です。目指す姿3の施策の表現を少し修正し、野生動物（ヒグマ等）との共生や外来種による影響に関する普及啓発という表現を追記させていただいております。

また、周辺市町村との連携という視点につきましては、第3章の行財政運営の取組方針にも大きく北海道と道内市町村との連携を掲げています。ご意見のとおり、道内市町村と連携しながらこの分野に関してもしっかりと取り組んでいきたいという考えです。

環境分野に関する説明は以上でして、資料1-2の修正箇所に関するご指摘、あるいは、改めて資料1-1を俯瞰してご覧いただき、お気づきになられた点などございましたら、忌憚なきご意見をいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○高野部会長 環境分野の意見対応でしたが、資料1-1だけではなく、資料2-1の土地空間分野にまとめたものもありました。あるいは、参考資料2にまとめたものもあり、置きどころを工夫していただきながらそれぞれ収めていったということでした。

それぞれの発言に対しての対応でしたが、いかがですか。

○牧野委員 今まで出された意見を上手にちりばめてまとめていただき、ありがたいなと思っております。

○高野部会長 ほかにいかがでしょうか。

○岡本委員 ちょっと思っていたことと違うなというところがあります。

意見12については、自動車で来ること自体が必要のないまちという切り口もお伝えしていたのです。もしかして書いているのかもしれないですが、追い切れていませんので、書いていたら教えていただきたいと思います。

また、計画のビジョンの在り方として、ある程度長いスパンで見ていくことが前提になる中、そう考えると、前にもお伝えしたと思うのですが、エネルギーが水素となったり、再生可能エネルギーの力で車が走ったりすればいいよねという話だけではなく、車で来なくても十分快適に楽しめるということが必要だと思います。

例えば、基本目標18の目指す姿4のところに持続可能な公共交通ネットワークと書かれており、ここを深読みすれば車で来なくても大丈夫なまちと読み取れなくもないとは思いますが、どう受け止めたらいいか、教えてもらいたいです。

○事務局（中本企画課長） 今まさに岡本委員がおっしゃっていただいたところを深読みといたしますか、目指す方向性としてはそういう意味合いも含んでおりますし、基本目標19で、都心部になりますけれども、ウォークアブルシティという歩きやすく楽しい、多様な活動ができる、滞留したくなる空間形成ということで、充実強化することや施策のところに入れております。また、参考資料2の2ページに分野横断でウェルネスというテーマがあるのですが、右側の②にもウォークアブルシティを位置づけておりまして、施策としてはこのように位置づけ、具体的な事業につなげていきたいと考えております。

○高野部会長 ほかにいかがでしょうか。

○椎野委員 私はご提案をいただいた内容で特に異論はないのですが、ナンバー13とナンバー14への対応として野生生物（ヒグマ等）という表記にしていますが、ヒグマという文言を入れたほうがいいということではないのでしょうか。やはり、皆様のご関心があるところだからという理解でよろしいですか。

○事務局（中本企画課長） そのように考えてあえて表現させていただきました。

市街地に出没し、市民の方がけがをされるという大きな事故もありましたので、市民の方の関心を踏まえてこのような表現といたしました。また、我々としてもしっかり対策をしていかなければならないと考えております。

なお、ヒグマだけを特出した行政計画をつくる予定もありますので、そういう意味合いも込めて表現をさせていただきました。

○椎野委員 文章はこのとおりでよろしいかと思えます。ただ、逆に言うと、ヒグマが市街地の近くにいるぐらい自然が豊かだということの証左だと思っていて、そんなに恐れなくてもいいかなと個人的には思っています。そもそも、ヒグマは、肉食ではなく、ふだんは木の実や草を食べる割と地味な生活をしているのですね。

ただ、割と市街地に近いところの空間の管理というか、人手が足りず、草がぼうぼうと
なっているところが増えていきますので、そうした空間の管理は非常に大事なかなと思います。
そこで、共生の中に自然と都市の境界領域の空間の管理、具体的に言うと、草刈りをして
見通しをよくするなど、それだけでもかなり共生できる可能性は高まるかなと思います。

そういう意味合いのことはここでなくてもいいのですが、どこかでお含みおきいただけ
るといいかなと思います。

○高野部会長 どう書くかという話ではありませんが、ヒグマ以外の野生動物となると、
市として考えているものにはどういうものがあるのですか。

○事務局（中本企画課長） 代表的なものを言いますと鹿、キツネ、カラスあたりかなと
思います。

○高野部会長 カラスについては、例えば、北大の学生に聞きますと、とても困っていて、
夕方、帰りはカラスが怖いということが出てくるのです。実際、襲われたという被害もあ
ります。

ヒグマは強烈に怖いですがけれども、頻度はそんなに多くないですよ。でも、カラスは
めったやたらといるのです。

カラス対策については何かあるのですか。

○事務局（中本企画課長） めったやたらに駆除するわけにはいかないようですが、でき
る対策は取っています。これはカラスにしてもキツネにしても同じです。

○高野部会長 ごみ処理に関わってということですか。

○事務局（中本企画課長） そうですね。区役所等が中心になって対応しております。

○高野部会長 ほかにいかがでしょうか。

○岡本委員 2点あります。

1点目は、基本目標16の②のエネルギーネットワークの整備促進についてです。

今、エネルギーネットワークをつくろうとする動きについて、幾つか聞こえてきていま
すが、現状、どのぐらいのスペックで、そのスペックを十分に活用していただけているの
でしょうか。新しめのところではスペックがあっても活かし切れていないという話も聞こ
えています。あるいは、整備してスペックはあるけれども、使わない、契約してくれない
という話になってしまうと宝の持ち腐れになってしまいますので、マネジメントといいま
すか、上手に使っていただくような工夫も必要だろうと思っています。

2点目は、もっと早く言ったほうがよかったのかもしれないなと思っていたことです。
ただ、広過ぎる話なので、必要ないのかもしれないですが、札幌市内に水を供給している
エリアの環境の保全も必要なかなと思っていました。

土地利用の会議に出席させていただいたとき、都市の外側になってしまうのですが、都市
で使う水を供給している山々が西側に広がっていて、その山々の環境保全をしないと皆さ
んが安心して飲める水が確保できないというお話があったことを思い出しました。これは
都市の範囲の話ではないので、載せられないのかもしれないですが、気持ちとしては安心・

安全な水の確保というのは必要だと思っていまして、書けるのであれば入れたほうがいいのかと今頃思いました。

○高野部会長 他分野に書いてあるかもしれないですが、1点目はエネルギーシステムが実際に用いられるのかどうか、その実用性について、2点目は取水地域の環境保全についてですが、どこかに書いてありますか。

○事務局（中本企画課長） エネルギーネットワークに関して詳細の情報は手持ちがないのですが、スペックに見合う量を得ることは必要だと思います。具体の事業を推進していくときには、今指摘していただいたことを踏まえ、もちろん、今も当然やっているので、より力を入れてやっていくように現場との調整や意見交換をしたいと思っています。

それから、水の環境を守る視点についてですが、恐らく、基本目標17の目指す姿1なのか2になってくるかなと思います。ただ、ここに書いている内容ではそこまで読み取れない印象もあるので、預かりまして、検討させていただければと思います。

○高野部会長 上下水道のことは他分野のところには書いていないですか。

○事務局（中本企画課長） 僕の記憶の範囲では記載はなかったと思います。それに、表現するとしたら基本目標17かなと思います。

○高野部会長 ほかにいかがでしょうか。

○椎野委員 資料3の市民ワークショップのご意見を見せていただきましたが、これについて発言をさせていただきます。

4ページの環境分野に関するご意見についてです。

札幌に生息する動物についてもっと深く理解したり研究したりする、多様な動植物と共存するなど、動物の話が割と出ていますよね。また、農園がたくさんある、市街地農園で活動する場所に税金を安くしてはというご意見があって、ほかには、建物の緑化ということで、屋上緑化や壁面緑化ということかと思いますが、緑地に関する記載があります。

どちらかという、日常的な空間やそのしつらえ、利用に関する市民からのご要望があるということだと思うのです。一方で、基本目標17の①の目指す姿1に書かれているような森林、農地、公園についてです。まとめて緑地という言い方をしますが、緑地には非常に多面的な機能があって、日常的には市民の方がおっしゃられるような役割もありますし、災害時など、非日常のときには市民の生活を守る、いわゆるグリーンインフラと言われている役割も果たすという側面もあるのですね。

防災について、文言としては目指す姿2に盛り込んでいただいているのですが、近いものだと4年前の2018年の胆振東部地震のとき、市内のあちこちのマンションで水が出なくなっていましたよね。でも、水の供給方式には幾つかあって、多くの公園では水が出たのです。そのため、そこから生活用水を調達したり、トイレを利用されたりしていたという報告を聞いております。ですから、そういう災害時のときの緑地の機能を改めて見直すということが必要かなと思いました。

また、日常的なことでは、先ほど岡本委員がおっしゃっていた水質の確保です。これは森林の保全にもひもづいていまして、ふだんから森林の保全をすることによって水質を一定に保つということが出来ます。あるいは、豪雨災害や土砂災害について、保水力を高めることで未然に防止するという役割もあります。

災害に関してはほかのところでも触れていると思うのですが、緑地やオープンスペースはそういう役割を担っているということを改めて確認していただいてもいいかなと思いました。これでもよろしいかもしれませんが、ふわっとした感じではなく、具体的に災害が起きて公園が水を供給する場所として使われたという経験も踏まえ、もし今度起きたときに備え、市民への災害に対する情報提供をしておくということです。緑地に限ることではないと思いますが、そんなことも検討していただいてもいいかなと思いました。

○高野部会長 基本目標 17 の目指す姿 2 にも単語としてはあるようではありますが、いかがですか。

○事務局（中本企画課長） 椎野委員の発表は、先日、私も聞かせていただきましたけれども、グリーンインフラの視点は、今、部会長からもおっしゃっていただいた 17 の目指す姿 2 の二つ目の丸で表現したつもりでした。防災機能から始まるセンテンスですが、この表現で足りているのかどうかは今のご指摘を踏まえて改めて考えたいと思いますので、預らせていただければと思います。

○高野部会長 ほかにいかがでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○高野部会長 それでは、都市空間分野のご説明をお願いします。

○事務局（中本企画課長） それでは、資料 2 に入らせていただきます。

先ほどと同様、資料 2-1 と資料 2-2 に分かれています。

主に 2-2 を使ってどのような対応、考え方かをご説明させてください。

1 ページをご覧ください。

基本目標 18 についてです。

まず、ナンバー 1 のご意見です。

景観について、地域らしさ、住民主体で推進する観点が必要だとのことのご指摘です。土地利用と景観の施策はもともと 1 本で表現していましたが、二つに分け、少し分かりやすく表現させていただくとともに、景観の施策について、地域特性、住民主体で推進する観点を追記し、個性的で魅力的な景観の形成に向けて多様な主体と連携し、地域の個性を踏まえながら景観まちづくりを推進しますという表現に修正させていただきました。

次に、ナンバー 2 のご意見です。

充実強化することに居心地がよく歩きたくなる空間というフレーズがあるが、イメージが少し湧きづらいのではないかというご指摘です。充実強化することの居心地がよく歩きたくなる空間の表現を少し補強し、居心地がよく歩きやすく楽しい、多様な活動ができる、

滞留したくなる空間という表現にさせていただきました。右欄にあるとおり、国土交通省の定義を参照して表現を修正したものです。

2ページをご覧ください。

ナンバー3のご意見です。

市民と行政の協働によるまちづくりとあるが、もう少し大きく捉えるべきというご指摘です。目指す姿3の施策に地域住民が主体となったという表現を追記しております。

また、ここには表記しておりませんが、地域分野の基本目標7の目指す姿2に誰もが市政を身近なものに感じ、計画の立案段階などから積極的に参加していますという事柄を掲げていまして、そこでも市民主体のまちづくりにしっかりと取り組んでいくことを表現させていただいております。

次に、ナンバー4のご意見です。

小学校の統廃合などに関して具体的な事例を交えるとよりよいのではというご指摘です。資料にコラムを追加し、厚別区の旧上野幌東小学校と旧上野幌西小学校の学校統合、そして、旧上野幌西小学校の後活用の事例を掲載させていただいております。

3ページをご覧ください。

ナンバー5のご意見です。

マンションの維持管理に関する観点を追記すべきというご指摘です。民間のマンション管理については、都市空間分野の基本目標20の目指す姿1の施策に所有者等による分譲マンションの適切な維持保全等に向けて専門家の助言等を受けられる体制の充実や管理適正化推進計画の策定などにより適正な管理を促しますと掲げていまして、しっかりと取り組んでいく考えです。

次に、ナンバー6のご意見です。

1人乗りの移動器具の普及を見据え、シームレスという非常に重要な概念、小さな移動手段も含めて記述しておくべきというご指摘です。基本目標19の目指す姿1の施策に小型モビリティ等の新たなモビリティの動向を踏まえながら札幌駅周辺地域におけるモビリティネットワークの形成等に関する観点を追記させていただいております。

また、郊外住宅地エリアなどにおいて公共交通ネットワークを維持するため、限られた乗務員で効率的な運用を図るデマンド交通の観点を基本目標18の目指す姿4の施策に追記したところです。

4ページをご覧ください。

基本目標19についてです。

まず、ナンバー7のご意見です。

都心における景観の切り口をもう少し強調すべきではないか、景観や眺望等の設定はキーワードとして重要であるというご指摘です。目指す姿1の施策に景観の観点としてまち並みへの配慮や眺望景観の創出に係る誘導と追記させていただきました。

5ページをご覧ください。

ナンバー 8 のご意見です。

都心のみどりづくりについて、大通公園の話題に関しても施策に反映していくべきというご指摘です。目指す姿 1 の施策に大通公園の在り方検討と追記させていただきました。

次に、ナンバー 9 のご意見です。

地下ネットワークについて、民間と行政との関わり方にもう少し自由度を高めて進めていくことが必要というご指摘です。目指す姿 1 の施策に官民連携の観点を追記しております。また、地下歩行ネットワークについては、都市空間分野の施策のほかに、第 1 章になりますが、分野横断の施策のウェルネスのところでもウォークアブルシティの推進を掲げていまして、ここでも地下歩行ネットワークの充実を掲げていることを申し添えさせていただきます。

6 ページをご覧ください。

ナンバー 10 のご意見です。

容積率緩和以外のインセンティブについても変更して検討する必要があるだろうというご指摘です。まさにご指摘のとおりで、ここはしっかりと検討したいと考えています。

次に、ナンバー 11 のご意見です。

札幌駅前を中心に大規模な開発工事が行われる中、市民や観光客等に対して負の影響が出ないように配慮すべきというご意見です。利用者への適切な周知、事業者間の情報共有等を図ることによって、実際に事業実施段階で事業者への影響が最小限となるよう対策を講じていきたいと考えています。

7 ページをご覧ください。

ナンバー 12 及びナンバー 13 のご意見です。

車椅子利用者も含めた丘珠空港へのアクセス性の向上、広域交通ネットワークにおける特に冬季間の安定性の向上が重要であるというご指摘です。目指す姿 4 の施策に安定性、代替制及びアクセス性の観点を追記しています。また、バリアフリーの視点については、ここ以外では、第 1 章のユニバーサルのところでも移動経路、建築物のバリアフリー化を一つの項目として掲げていまして、誰もが円滑に移動することができ、快適に利用できる施設等の整備を目指していきます。それから、生活暮らし分野の基本目標 5 の目指す姿 2 の施策にも四季を通じて誰もが円滑に移動することができる環境の整備に向けて地下鉄駅などの旅客施設や、道路、学校などの公共施設のバリアフリー化を進めるほか、タクシー、バス乗り場等の冬季の乗り継ぎ機能強化を検討しますと掲げていまして、分野はまたがりますけれども、総合的、複合的に取り組んでいきたいという考えです。

8 ページをご覧ください。

基本目標 20 についてです。

ナンバー 14 のご意見です。

都市基盤に関しても環境配慮の観点を追記すべきというご意見です。環境への配慮を追記しています。

次に、ナンバー15のご意見です。

ICT活用による手続の変化とそこから生まれてくる余裕空間の活用についてもう少し表現してもいいのではというご指摘です。目指す姿2の施策にデジタル技術の動向、空間活用の最適化の視点を追記させていただきました。

9ページをご覧ください。

ナンバー16のご意見です。

人中心の居心地がよく歩きたくなる空間形成に関して、冬季も利用できるような屋内空間も含めて検討すべきというご意見です。目指す姿3の施策に屋内空間活用の観点を追記させていただきました。

資料2-2は以上となりますが、それとは別に庁内で議論させていただいた中で修正を行ったところがありますので、資料2-1で説明をさせていただきます。

まず、資料2-1の1枚目の左側にあります基本目標18の目指す姿の2の地域交流拠点に関する施策についてです。

中段の点線囲みですが、地域交流拠点17か所としていまして、これは現行の戦略ビジョンと同一ですが、それを明示させていただきました。

さらに、下段になりますが、第2次戦略ビジョンの期間中に、拠点の特徴を踏まえ、先行的に進めていく三つの地域交流拠点がありまして、代表事例として真駒内、篠路、清田に関する記述を追記させていただいております。

続きまして、1枚目の右側にあります基本目標18の目指す姿3になります。

住宅市街地に関する施策について、中段に小学校旧校舎の跡活用についてというコラムの掲載がありますが、その一つ上に中黒でもみじ台に関する記述を追記させていただきました。住宅市街地の中で特に動きのある箇所ということで掲載しております。

2ページをご覧ください。

基本目標19の目指す姿2になります。

左下ですが、高次機能交流拠点に関する施策について補強をしていまして、点線囲みで高次機能交流拠点の一覧を示しています。

高次機能交流拠点に関しましては、丘珠空港周辺、中島公園周辺、スノーリゾート(新)と表現していますが、この3か所を新規に追加したいと考え、掲載させていただきました。

また、もともとありました円山動物園周辺に関しては、少し範囲を広げ、円山動物園・大倉山周辺とさせていただいております。

右欄になりますけれども、右上の表に掲げる五つの動きのある拠点について、民間開発を誘導するとともに、民間活力を生かしながら必要な都市基盤、施設の整備などを行う考えを明示させていただいております。

そのほかの高次機能交流拠点の位置づけについては右下の一覧表に示しておりますが、おおむね第1次戦略ビジョンの内容を踏襲しております。

3ページをご覧ください。

右側に都市空間の活用のイメージ図を掲載させていただきました。イメージ図はビジョン編でも掲載しており、ご議論をいただいたところですが、より詳しく表現したものを戦略編にも掲載をしたいという考えです。

○高野部会長 資料2-2では意見に対応したもの、また、庁内で議論をいただき、地域を特出ししたというご説明がございました。どの点でも結構ですし、また、今ご説明がなかった点で過不足等があればご意見をお願いします。

○牧野委員 最近、札幌のまち歩きをしてみまして、昼の顔と夜の顔がすごく違うなとつくづく思いました。基本目標19の下に札幌市の強み、魅力という項目がありますが、札幌の夜景はもっと自慢してもいいのではないかなと思います。観光もそうですし、魅力の一つとしていいということです。

今、ここには夜景という言葉は出ていませんが、札幌には夜景ナビゲーターという方もいらっしゃるのです。最近、魅力を広めたいということで、夜のまち歩きなんかもしているみたいですがけれども、そうしたものも札幌の魅力の一つとして入れたらいいのかなと思いました。

○高野部会長 夜景のほかに、冬だとイルミネーションもありますよね。これは本当に素晴らしいのですけれども、そういうものはどこかにありましたか。

○事務局（中本企画課長） ご指摘の内容からすると観光の分野に掲載する項目かなと思いました。

参考資料1の8ページになりますが、経済分野の取組の左側の基本目標10の目指す姿1の丸の四つ目です。札幌市、北海道の魅力を生かしたコンテンツの充実とざっくりとした表現としていますが、気持ちとしてはここに入れているのです。実際、夜景観光については札幌市も力を入れ、民間の夜景表彰の中では上位にも選ばれているのです。ご指摘の視点をどこまで表現するのが適当か、ほかとの並びも踏まえながら、いま一度、検証させていただければと思います。

○高野部会長 本質的な話と少しずれるのですけれども、例えば、基本目標18の目指す姿①の最初の丸に土地利用計画制度の適切な運用という言葉がありますよね。でも、この言葉を理解している人は、都市計画学の講義を取っても、相当いい成績ではないと分からないような用語だと思うのです。

こういう専門用語は分かりやすいようにされるのですか。

○事務局（中本企画課長） 本書の段階では全てに注釈を入れます。特に専門用語や片仮名用語も同様です。

○高野部会長 下に脚注をつけるということですか。

○事務局（中本企画課長） ビジョン編においても、完成版では注釈がついております。

○高野部会長 ほかにいかがでしょうか。

○岡本委員 基本目標19で地域交流拠点を明記しました、高次機能交流拠点を明記しましたということで、前の戦略ビジョンに掲載されているものから継承させているものもあ

るというお話だったのですけれども、前に位置づけた後、特に何の成果もなく、そのまま引き継いでいくということなのでしょうか。

取りあえず、位置づけは継承し、先行していくところがありつつ、全体に広げていくのだと。けれども、最終的な目標年次として、その他高次機能交流拠点ということでその他に分けられた拠点はいつまでに恩恵が受けられるのか、変化が訪れるのか、前回から今回のステップの間に何か変化があったのかが気になりました。どういう形になるのかは分からないですが、それを表記できるのであれば表記するほうがいいのかなと思いました。

今、まちの姿が大きく変わっていていますし、主に新幹線が来ることを見据えてお金が出るようになるよね、人がたくさん来るようになるよね、観光客が戻ってくるよねという期待大でたくさん動いているわけです。けれども、よくよく考えてみると、新幹線の絵はありますし、新幹線の話もちらっと出ているのですが、来たことを生かすといいますか、起爆剤として変化がもたらされるということがもう一言ぐらい強めに出てもいいのではないかなと思っていますが、どのように捉えられているのでしょうか。

○事務局（中本企画課長） 基本目標19のページの右下の欄のところについてですが、ハードの動きだけではなく、ソフト面も含め、これまでも動きがあって、これからも動きがあるということで踏襲して掲載するという考え方です。

ただ、例えば、苗穂地区でいくと中央体育館の話があります。また、東雁来でいくと良好な住環境のモデル地区、芸術の森でいくと、アートヴィレッジの企業集積など、出来上がったものは時点修正し、次の動きに入っていくことが分かる表現のほうがいいのだろうなど思いましたので、預かりまして、検討させていただければと思います。

次に、新幹線についてです。

ビジョン編では総合的に都市のリニューアルということで大きく触れましたが、確かにご指摘の視点はあろうかと思えます。それに、今、民間開発の誘導施策などがちりばめられて書かれている状態で、新幹線という横串で表現されていないところがあります。せっかく新幹線の写真があり、本書にまでこの状態に入るかは編集の過程で検討しますけれども、新幹線と絡めて表現することが周りとのバランスでいいかどうか、もう一回見せていただき、ご指摘も含め、考えさせていただければと思います。

○高野部会長 特に岡本委員の最初のご指摘ですが、もっと大きな観点で言うと、ここに描いたことについて、戦略をつくった後、5年後や10年後にどうチェックし、修正していくか、いわゆるPDCAについてはどうなるのでしたか。

○事務局（中本企画課長） 次の三つ目の議題のところ少し触れさせていただくのですが、指標を設けますので、その指標を基に検証していくこととなります。

ただ、基本目標19の右下の高次機能交流拠点の一つ一つのスポットにポイントを絞った指標は現在設けていないので、そこをどう検証するかはあります。ただ、現行ビジョンから表現が変わっていないと思われるものは進んでいないのではないかというご指摘をいただくのはごもっともだなと感じますので、そこは考えさせてください。動きは必ずある

ので、その動きを表現していく必要はあると思います。

○高野部会長 このリストの中で私が知っているだけでもいろいろな動きがあるものがありますが、それを一々書くわけにもいかないといえますか、細かい話もありますから、その工夫ですね。

椎野委員、いかがでしょうか。

○椎野委員 私からは特段ありません。

コラムは非常に分かりやすいですね。載せていただき、ありがとうございます。

ただ、統廃合後の小学校ですが、現状では活用されていない事例が多いかなと思います。これは非常によいケースかと思うので、なぜうまくいったのかを検証していただけないかなと思いました。

また、これはどうでもよいことかもしれませんが、対応表はどこかに載るのですか。資料2-2の1の対応の下から3行目に「などを行ういます」と書いてありまして、どこかからの引用だったら訂正しておいていただいたほうがいいですね。

○高野部会長 今日のご説明の中でも「四季を通じた」や「冬季の」という言葉がちりばめられて入っておりますよね。市民の皆さんが大変興味あるといえますか、関心をお持ちの冬に対する表現です。冬の生活をはじめ、利雪、克雪という言葉もありますが、ビジョン編を含め、どういう表現でしたか。冬に対する挑戦とまとめていたわけではないですよね。

○事務局（中本企画課長） 冬に対する挑戦という書き方はしていませんが、参考資料2が分野横断の最終的に第1章になるところで、4ページの右側に雪との暮らし、雪の活用ということで、分野横断に横串を刺して取り組んでいくものを掲げておりますし、持続可能な雪対策に向けた検討や大雪時における対応についても中段やや下ぐらいに掲載しています。加えて、雪は大きな関心事なので、分野別の中の生活・暮らしのところに、参考資料1の4ページですけれども、冬季の対策について触れさせていただいておりますし、防災のところでも冬の災害や大雪によることに触れさせていただいています。

○高野部会長 分野横断のところでは先進的な話が書いており、参考資料1の生活・暮らしの分野では現状の問題をどう解決していくかということが書いてあるんですね。

そのほか、単語としては簡単な表現ですけれども、四季を通じた環境をつくると書いてあるところもありますが、言うはやすしで、非常に難しいことです。でも、冬についてもいろいろな側面から書いてあるということでした。

いろいろな問題、いろいろなご意見をどうやって分別し、どう書き込んでいくかに非常にご苦労され、現状の姿になっているということですので、ビジョン編と戦略編を出したとき、市民の皆さんは最初から最後まで精読するわけではないので、解説本というのでしょうか、それでは表現を工夫していただき、それぞれの皆さんに私の言ったことはどう書いてあるのかという質問に答えられるようにしないとイケませんね。全部を読み込めば分かるかもしれませんが、解説者がいないと難しいですね。そういう意味では、

出来上がった後には、市民向けのガイダンスといたしますか、疑問に答える場があってもいいなと感じました。

今日は皆さんがいるから、そこはここですと言っていただけたわけです。

ほかにかがででしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○高野部会長 それでは、後で全体を通じたご質問を受けますが、先ほどもご説明いただきました資料3の「戦略編の答申イメージについて」に移ります。

ご説明をお願いいたします。

○事務局(中本企画課長) 改めまして、資料3をご覧ください。

2ページが分野横断の第1章のイメージを一部作成したものです。これは参考資料2に相当するもので、これが資料3の形で落とし込まれます。

第1章の1は省略していますが、2以降は具体的なプロジェクトということで、ここではユニバーサルプロジェクトを例に作成しております。

ピンク色の囲みのところですが、プロジェクト名とその簡単な内容を1行程度で表し、その下にプロジェクトの柱ということで何を行うのかを掲載しております。

分野横断的に取り組む施策の記載については、9月に開催した審議会におきまして、ユニバーサル、スマート、ウェルネスそれぞれの中で記載内容の粒度といたしますか、施策の大きさを統一したほうがいいのではないかとのご意見もいただいておりますので、その点にも留意して整理を行ったものを資料3に落とし込んでいくというイメージです。

3ページをご覧ください。

ユニバーサルプロジェクトを行うことによって札幌市がどう変わるかを端的に示したいと思っています。文章で示すと同時に、それを視覚的につかむことのできるイメージ図をそれぞれの横軸において掲載したいと考えております。さらに、どういうロードマップでそれを実現していくかという大まかなスケジュールを書き、一番下に指標を掲載します。

なお、指標についてですが、分野のところでも別途指標を立てます。そこで触れさせていただきますので、4ページに移ります。

先ほどもご覧いただきましたが、それぞれの個別分野はこのイメージになります。

一番下に成果指標を設けさせていただきます。基本目標に掲げていることがどれくらい実現されているか、市民アンケートにより、その評価を点数化する方式でモニタリングする考えです。

アンケートでは、5段階評価の質問とともに、目指す姿に関するキーワードを幾つか挙げさせていただいて、プラスに変わったのか、変わっていないのか、マイナスに向かったのかを尋ね、それを数値化し、まちが変わっていったかどうかを見ます。

ここで指標について補足をさせていただきます。

何を指標にするのかは非常に庁内議論があり、なかなか難しいところです。戦略ビジョ

ンそのものをどうモニタリングするか、また、それぞれのK P I 施策のどこに設定をするのが適当なのかということがあろうと思っています。

第1章の分野横断的施策については、K P I ということ、ある程度具体的なパフォーマンスをはかる指標といますか、何がどれくらい増えたかというものを複数設定したいと考えておりますが、第2章の分野の基本目標ごとに施策についてはK G I のような指標の設定が適当ではないかという検討に至ったところです。

つまり、この基本目標自体が市民の方々にちゃんと浸透しているのか、それが実感できるレベルまでまちが変わってきているのかをじかに聞きし、いいところはどこで、足りないところはどこかを分析しながらP D C Aを回していくという考えです。

その背景です。

札幌市の計画体系といますか、この戦略ビジョンが札幌市の総合計画全体を包括する計画となるのですが、その下にも4年間でどういった施策展開をしていくのかという中期の実施計画が策定されます。さらに、その横には分野ごとにそれぞれ個別計画を立てていきます。そして、それにぶら下がる個別の事業ごとでもK P I を設定していきます。もちろん、全てに指標を設定するのですが、重複がないように、また、それぞれが悪い影響を与えるような制約とならないよう、そして、段階的に把握ができ、その施策を行うのに一番有効な指標は何かを考え、今回のような案を考えたとのことです。

この分野の成果指標を市民の方にお聞きするアンケート調査ですが、もう間もなくアンケートに取りかかろうと思っています。年明けに審議会を改めて開催させていただき予定しておりますが、その際にはこのような指標になりますと、具体的な数値も含め、お示しできるように進めてまいりたいと考えております。

○高野部会長 まず、お聞きしたいのは、今日の資料2-1や参考資料2にあるような分野横断的な資料から実際の答申イメージに落とし込むときには、情報をまとめたりすることになるのですか。こちらのほうだと字がいっぱいありますけれども、こちらは割と少ないですね。今日の議論をいただいた資料から答申イメージに落とし込むときにはそぎ落としていくといいますか、要約されるのかどうかということです。

もう一つは、分野横断についてはロードマップをつけるということでしたが、分野横断ではない各専門分野のものについてはロードマップをつけないということですか。

○事務局（中本企画課長） 議論していただいた内容を勝手にそぎ落とすということはいたしません。今回は一部しか書き起こしてきていないので、少しシンプルに見えるのですが、基本的にはご議論をいただいたものは掲載します。

○高野部会長 これがそのまま載るというイメージですか。

○事務局（中本企画課長） タイトルはつけていきます。今、文書でだーっと書いているものの上に、今回の例でいくと太ゴシックでタイトルをつけていますが、視覚的にも少し見やすいようにします。また、そのタイトルの中に複数の施策をくくる作業はあるかなと思っています。

また、例外としましては、第1章の分野横断についてです。

基本的には勝手にそぎ落とすことはしませんが、前回の審議会のときに粒度を統一した方がいいのではないかとのご指摘をいただいておりますので、それに関しては反映した上で掲載したいと考えております。

そして、分野のところについてのロードマップは想定しておりません。分野で区切ったものにロードマップをぼんと載せるのが少し難しいといえますか、表現し切れないと考えております。

○高野部会長 写真の入れ替えはあるのですか。追加したり削除したりはしますか。

○事務局（中本企画課長）写真やイラストについては分かりやすさを追求していきたいと思っておりますので、少し調整はあろうかと思っております。

○高野部会長 それでは、いかがでしょうか。

○岡本委員 年明けぐらいに予定しているアンケートについてです。

例えば、4ページに世界に冠たる環境都市が実現している（5段階評価）と書いてありますが、アンケート質問文としては、「札幌市や世界に冠たる環境都市となっていると思えますか」となるのでしょうか、それぞれの基本目標が質問文の前につけられるということですか。もしそうだとしたら、認識がそれぞれ異なり、読まれ方も異なる状況の中でのご回答の集約となると思えます。何といたらいのか、素直にこういう数字でしたと受け止めていいのかどうか不安が残るのですが、そこはどのような議論になっていたのでしょうか。

○事務局（中本企画課長）基本目標にぶら下がっている目指す姿も明示し、その部分についていい方向にまちが変わったのか、変わっていないのかにも印をつけていただきながら、だから世界に冠たる環境都市はこの評価だねとなるものにしたいと思っております。

ただ、どこまでやってもアンケート調査なので、数値の定量的な評価とは違ってきます。ここは我々も悩みながらですが、こういう幅広の施策を束ねる総合的な指標としてはどういう在り方がいいのか、他都市の指標も見ています。また、指標に関する調査事業について、民間の企業や大学の先生にもお力添えをいただいて分析していただいた中にこのような指標の在り方があるのではないかとのご提案をいただいたので、試行的な意味合いを持ちつつ、今回はこのような指標で臨んでいきたいと考えております。

○高野部会長 いろいろと勉強された上でこういうことをやってみたいというチャレンジなことだということですね。

ただ、定点観測すると、それが上がったり下がったり、意外に実態に即した結果が得られる可能性は高いと思っております。

分野横断のほうでは実際の指標を載せると思うのですがけれども、例えば、コロナの影響により、令和2年度からは標準的な状況ではないものもたくさんありますよね。その辺はコロナ前のものを使うという配慮をされるのですか。

○事務局（中本企画課長）項目によって要検討かなと思っております。ほかの計画でもコ

コロナの影響をどう読むかはすごく難しく、中には、コロナの影響かもしれないけれども、実はコロナがなくてもこの数値だったのではないかというものもあって、非常に判断が難しいところでして、我々も研究したいと思っています。

○高野部会長 ほかにいかがでしょうか。

○椎野委員 先ほどご説明いただいた市民アンケートについてです。

これはそれぞれの指標に対してもう少し分かりやすい言葉で幾つかの小項目に分けて聞く感じなのでしょうか。要は、世界に冠たる環境都市化を実現しているかどうかと聞かれてもどう答えていいかが分からないと思うのです。具体的に幾つかの小項目がぶら下がっており、回答していただいたものの平均を示すというようなことですか。

○事務局（中本企画課長） アンケート用紙をお持ちしておらず、恐縮ですけれども、イメージとしては、世界に冠たる環境都市の下に資料1-1の目指す姿がぶら下がります。市民の方には戦略ビジョンの認知度そのものも聞きたいので、それをお示しした上でそれぞれについて札幌市がよくなったか、変わっていないのか、悪くなったかにチェックをつけていただき、それを踏まえて最終的に世界に冠たる環境都市なのかの評価を決めていただくという方式にしたいと考えております。

○椎野委員 よくなったかどうかというのは今後の話ということでよろしいですか。例えば、5年後に同じことを聞いて、その数値が上向いたかどうかで判断されるのかということですが、いかがでしょうか。

○事務局（中本企画課長） 毎年、どういうふうに変ったかを見ていきたいと思っております。

○椎野委員 アンケートはウェブですか。

○事務局（中本企画課長） ウェブでやりたいのですが、ウェブが使えない人はどうなのだという問題が毎回生じます。そのため、無作為抽出された方に紙をお送りし、回答はウェブでもできるようにしたいと思っております。

○椎野委員 ちなみに、5段階評価だと、真ん中はどちらとも言えないだと思うのですが、それだと評価がつかないので、4段階にするとはっきりするかなと思います。やはり、真ん中があったほうが安心ですか。

○事務局（中本企画課長） 真ん中は「普通」としております。また、判断のしようがないと思う方もいらっしゃるかと思いますので、それとは別に「分からない」という項目をつくる想定です。

なお、プラスマイナスで評価するのですが、点数化をして、「3・普通」にチェックがあっても、それを足し、割り算をして、点数にしたもので最終的に伸び率を見たいと考えています。

○椎野委員 点数化し、例えば3.1や2.9となり、それが上向いたか下がったかで評価するということですね。

○高野部会長 ほかにいかがでしょうか。

○牧野委員 今日資料を見て思ったのですけれども、今、オリンピックの誘致をやっていますよね。オリンピックの開催が決定するかしないかによって、これからのまちづくりへのエネルギーや市民の皆さんの意識がすごく変わるような気がするのです。今回、アンケート調査をするということでしたが、それによってかなり差が出てくるのかなとも思っています。

今日の資料の高次機能交流拠点も見てみると、ある意味、オリンピックを意識して選ばれているような気もします。岡本委員がおっしゃっていたこともそれに付随してくるのかなと思います。でも、オリンピックがあってもなくても、まちづくりに意欲を持ち、すてきな札幌になっていくことを願っています。

○高野部会長 仮に誘致が成功した場合、それによってまちづくりでもいろいろな取組が起きるということですか。これはこのビジョンとは直接関係ないのかもしれませんが、いかがですか。

○事務局（中本企画課長） ビジョン編で表現させていただいたのですけれども、オリパラは、まちづくりの視点から見たとき、加速させるものという捉え方にさせていただきました。今回のビジョンに掲載したものはオリパラの開催があろうがなかろうがやるべきことを掲載しておりますが、それに加えて、オリパラがもし開催されるとなりましたら、それに向けての準備、あるいは、開催時、開催後、さらには、外からの投資も含め、まちづくりがより加速、実現していくということをビジョン編の最後に表現させていただいております。

○高野部会長 こちらはこちらで予定どおりつくっていかなければいけないということですが、そういう制約の中でやっていくということですね。

ほかにいかがでしょうか。

○岡本委員 一つは好奇心で聞きまして、もう一つは体裁についてです。

今はサンプル的に幾つかのキーワードやキーセンテンスが載っていますので、何となく収まりがつくのかなという気がするのですが、僕がコンサルタントで働いていたときの経験を思うと、レイアウトを考えると結構入れにくいな、入らないのではないかなとか思いました。

2ページまたぎ、3ページまたぎも想定しているのか、見開きを限界点にして、1ページで収まるものと見開きで見えるものぐらいのイメージなのかです。例えば、真ん中の黒色の点線の四角でもっとたくさん載せようなど、そういう加減が結構難しいと思うのですね。これからの作業なので、何とも言えないと思いますけれども、どんな体裁での見せ方を想定されているのかを伺いたいと思います。

もう一つは、アンケートについてです。幾つかの指標の中の小項目とかの伝わりやすいものに表現し直して伺うということでしたが、基本目標が数十あり、それに項目がつくと100くらいの項目でアンケートに答えていただくことになるのかなと想像しました。これはそうするしかないのですよね。すごく大変だなと思いました。回収率が下がったり、

途中でやめてしまったり、それも含みで一定数を確保できるようにするというお話なのか、返信していただける回収率はどのくらいを目標にされており、どのくらいの規模感として
いるのか、教えてほしいです。

○事務局（中本企画課長） 体裁については確かにご指摘のとおりです。まず、第1章の
分野横断的に取り組む施策のほうは、プロジェクトの柱と札幌市の将来イメージ、ロード
マップ、成果指標を一連で見られるようにするほうがよいだろうと考えておりますので、
なるべく見開きに収まるようにしたいと思っております。ただ、どうしても限界はありま
す。ですから、仮にずれたとしても、めくらないと次が見られない状態にはならないよう
に編集したいなどは考えています。

また、第2章の分野につきましては、縦に読んでいってもご理解をいただける構成にし
ようと思っておりますし、編集上でも縦長にならざるを得ないかなと思っております。

次に、アンケート調査についてです。細かく分解していくと確かに物すごい項目数です
けれども、最終的に回答する項目は基本目標の数なので、20項目となります。

ただ、細かく書いているので、抵抗感を持たれる方はいらっしゃると思っております。で
すから、ウェブ回答も含め、シンプルに回答できるようにしたいと思います。

また、アンケートは1万名に無作為でお送りします。これまでのアンケートは2割ぐら
いの回答率です。2000ぐらいの回答が得られれば指標に使えるサンプル数になるうか
なと考えています。

○高野部会長 こういうアンケート調査の場合、無作為抽出ではなく、ある固定層でモニ
ターをつくり、その人たちにやってもらい、毎年、その人たちに回答してもらったほう
が変化率は分かりやすく、そういう調査方法もあるのです。

ただ、都合が悪くなる方もいて、そのうちの1割から2割程度は毎年変えていくとい
うことはあります。でも、年齢分布が違えば回答の傾向が全然違ってきますので、固定層に
モニターしてもらおうという方法もないことはないということです。とはいえ、それだと偏
りも出てしまい、難しいところでもあります。

1万人に送り、回答するのはどうしても保守的な人や行政に親和性の高い人で、8割の
人たちは親和性の低い人といえますか、意欲が少ない人で、そういう人の意見が入ってこ
ないということもあって、アンケート調査は難しいですね。

そうは言いながらも何かはやらなくてはいけないので、屁理屈ばかり言っても何も
進みません。これは我々もいつも痛感しながら調査しています。

ほかにかがででしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○高野部会長 それでは、以上で議事は終わります。

連絡事項をお願いしたいと思います。

3. 閉 会

○事務局（浅村政策企画部長） 長時間にわたりまして、ありがとうございます。

今日も重要なご指摘をたくさんいただきました。

これから本格的な人口減少時代に入中、車の話、ウォークブルの話も出ましたが、前回の戦略ビジョンでは歩いて暮らせるまちづくりが大きなテーマにありました。これから人口密度が減っていきますので、歩行者のアメニティーが重視されるまちづくりに変わっていている過程にあります。それを計画の中では明確に書いておりませんが、定礎に流れる思想としてはあって、自動車交通とのバランスがかなり変わってくると思われまして、そういうことがちりばめられているとご理解をいただければと思っております。

ただ、そういうテーマでこの戦略ビジョンを見たときにどうなっているのですかというときのプレゼンテーションといたしますか、説明にはいろいろな切り口があって、冬の暮らしやみどりの保全もそうで、10年単位で見たときにはかなり変わりますし、政策テーマも変わるということはいろいろな分野で起きると思います。今日は各部局の者もオブザーバーとして来ていますが、個別の計画を立てるときにはその思想に立ち返り、底流に流れる思想を個別計画にもしっかりと位置づけていくという議論を続けてやっていただこうと思っておりますし、我々が計画を策定していくときには関与しますので、今日いただいたご意見は生かしていきたいと思っております。

それから、指標の設定についてはご懸念といたしますか、いろいろご指摘をいただきましたけれども、我々も非常に悩んでいます。先ほどは個別計画のお話もしましたが、そこにおいても目標の設定はしまして、KPIをそれぞれ立てていきます。その上で、戦略ビジョンでどういう指標を設定するのかは計画体系上でも非常に難しいところがあるのですが、重複感をどう解消するかということがあります。また、施策をどんなに頑張っても、ある社会現象や時代のちょっとした揺れみたいなものが反映されるようなものを排除していくことができるのかについては相当議論しております。

そういったことも含め、今回は、この戦略ビジョンに対する理解度を高めていく必要があるということで、啓発活動といたしますか、戦略ビジョンができた後にはそうしたことにも力を入れてやっていかなければいけないと思っておりますが、この戦略ビジョンがどれだけ市民の方々に浸透しているか、この戦略ビジョンをつくった後に個別計画をつくり、また、各年度の予算を立て、事業も展開していくわけですが、それがこの戦略ビジョンとどうつながっていくのかも意識しながらの指標設定といたしますか、モニタリングをしていきたいと思っております。

今回は試行的なアンケート調査となりますが、次回はその中間報告をさせていただき、改善点等があればご指摘をいただければと思っております。

また、答申のイメージについてもいろいろご指摘をいただきましたので、その点も踏まえ、年明けに答申案という形で最終的なものを確認していただき、ご議論をいただければと思っております。

本日は、ありがとうございました。

○事務局（中本企画課長） 次回は、審議会全体の会を1月中旬から末までの間に予定しております。予定どおりでいくと次回が最後の会議となる見込みです。日程調整はノーザンクロスをお願いしておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○高野部会長 それでは、これで本日の会議を終了させていただきます。

誠にありがとうございました。

以 上